

高校生の指導法 教員意見交わす

福井で教育研究大会

高校教員の指導力向上を目的にした県高校教育研究大会は23日、福井市のアオッサで開かれた。約500人が参加。国語、数学など10部会で授業の実践例などを報告し、生徒が主体的に学ぶ力を育てる指導について意見を交わした。写真。

数学部会の発表では、武生高の今川大輔教諭と竹林亜紀教諭が、主体的に対話し深く学ぶアクティブラーニングをグループ学習で実践した事例を報告した。4人1組でテストで間違った問題を教え合いながら解答を作り、自分の解答の改善点などに気付かせ



る取り組みで「減点理由などを生徒自らが考えるため、理解度の定着が見込める」などのメリットを話した。課題としては生徒から「1人で考えたい」との意見もあると述べ

た。
意見交換では「生徒の感想の理由を深く分析して、改善につなげることが重要」などが出た。

(石井敬夫)